

昭和五十八年

「木材流通三日月湖論」

笹本 和義

先ごろ、東京墨田区のある材木店経営者から面白い話を聞いた。ここに紹介して読者の感想を求めたい。経営者はこういう。

◇

わが国の木材流通はこれまでくねくねと曲がった河のような流れ方をしていた。立木が製品となつて住宅に使われるまでの間に森林組合や製材所や市場や問屋や材木屋などさまざまな業者がいて、それぞれの役割を果たしながら安定供給をさせてきた。

多くの人材を雇用し、後継者を育て、関連業者と取引することで地域経済に寄与し、多くの業者が介在することで暴騰や暴落を

吸収し、価格安定にも役立ってきた。

ところが最近その流れが直線になり、湾曲部分が三日月湖として取り残されるようになった。

もつとも身近な例はプレカット流通で、プレカット工場が全国に増え、木材も工場が提供するようになると小売店経由で構造材が流れなくなった。問屋や市場や出荷者に至るまで影響がさかのぼり、業者がまとめて三日月湖に封じ込められてしまった。

もちろん三日月湖には水が流れ込まないから干し上がって小さくなって行く。

今日の木材流通の問題や悩みはその三日月湖に残されてしまったことが最大の原因だ。木材PRや需要回復のさまざまな活動も干し上がって行く湖の中で行っている限り、淀んだ水をかき混ぜる程度の効果しかなくなつた。

恐ろしいのはその変化の速度が猛烈に上がっていることで、木材流通のドッグイヤー（一

年で七歳老化）だ。プレカットは構造材から羽柄材や造作材へと拡大、金具や工法の提案のほか最近では合板や建材まで販売、新しい物流拠点へと成長している。

しかも新しい流通はプレカットだけでなくさまざまな分野に広がり、例えば建材メーカーや大手問屋はインターネットで在庫照会や顧客管理を行うほか、木材共販所でも丸太のネット販売に乗り出した。

つまりプレカットが最初是一部の加工代行からスタートして流通全体に及んだように猛烈な速度でこれまでの曲がった流通が新しい業者の代行でまっすぐにになり、既存流通が閉ざされた湖になっているのだ。

そんな環境で生き延びるには小売店の場合、元請けしかないという意見もあるが、そこには落とし穴がある。一棟の木材代金は大体14、5%しかないのに一棟全体を動かしているとは錯覚しがちなのだ。

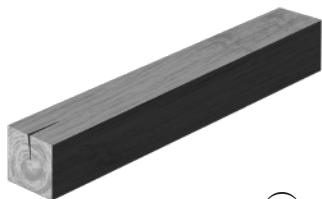
例えば三千万円の住宅なら二百八十万円

しかカネが入らないのに二千万円を動かしている気になって資金ショートを招いてしまいやすい。

だから私は元請けはやりたくないが、やらざるを得ないの状況にまで追い詰められている。小売店は一体どうしたらいいんだ一とその経営者は頭を抱えた。

◇

一月の新設住宅着工数は11・1%減で年率換算では百二十四千戸だ。昨年よりも三万戸も減少する計算だ。どんどん干し上がっていく三日月湖から脱出する方策はあるのか、読者に聞きたい。



（むじな）

三日月湖論を読んで

三日月湖の底にて

新木場問屋集より

「今の木材業界は川の主流から取り残された三日月湖のようだ」という本誌記事を、興味深く読んだ。

私も何年前かに、ある銀行の会で、「プレカットの普及などにより商流が変わり、今まで本流であった新木場を通る流れが翻って支流となり、別の所に本流が出来つつある。このままでは新木場の材木業者は取り残されてしまうが、それを避ける道は二つしかない。

一つは、治水工事をして本流をこちらに引き戻すことであるが、これには膨大なエネルギーが必要である。もう一つは、新しく出

来た本流のほうに引越すことである。この方が楽かも知れないが、今からの新規参入では競争が厳しいことは覚悟しなければなるまい。」

という話をしたことがある。それからの年月で、新木場はついに三日月湖になったのかと感慨深かったが、感心している場合ではない。

当時から支流の水量が益々減ることは予想していたので、当社は干上がっても生きていけるように「エラ呼吸」だけでなく、「肺呼吸」も出来る両生類になることを目指した。

つまり、木材の商売以外に不動産賃貸という、もう一つの収入源を育てることに力を入れたのである。

気が付くと、進化しすぎて両生類を通り越し、肺呼吸のみの「は虫類」になりつつあり、反省している。進化も良いが、し過ぎると滅亡への道をたどることになるし、魚であった頃が懐かしいという事もある。何とかエラでも呼吸しようと、新しい木材業を目指して

悪戦苦闘しているが、そう簡単には成果は出ない。ゼロからのスタートは時間が掛かる。

今の本流は、プレカットにしても、新建材にしても、省力化や大量生産を前提にしている。これは住宅着工数が増えている時代は良いが、これから百万戸時代を迎えようという時代には、更に競争が激化し、戦国時代を迎えることは目に見えている。

何も今から進んで戦場に打って出ることもないから、三日月湖の底を這い回りながら小さい穴を掘り水源を見つけ出し、三日月湖に新たな流れを取り戻そうとしているわけだが、なかなか水源にブチ当たらない。

掘り進む方向は決まっている。大工・工務店の方向に向かつて、水は出ない。彼等も三日月湖の底の住人で、日増しに干上がる水面を見つめながら溜息をついているのだから、共倒れになるのがオチである。

やはり消費者に向かつて進まなくてはならないのだが、この「一般消費者」というターゲッ

トは、逃げ水のように捕まえ所がないのである。あつちかと思つとこつち、こつちかと思つて掘り進み、顔を出すと、もうそこにはいない。

結局、不特定多数を相手にしようとするから、小魚の群を追い回すサメのようにサツと逃げられて疲れてしまうわけで、考えた末にターゲットを絞り込むことにした。環境保護に関心の高い人たちは、本物の木材を使うことにも積極的で、高くても買ってくれるだろうと考えたのである。

三日月湖の底を、ブラックバスやピラニアから逃げながら凄まじいスピードで暴走している肺魚を見かけたら、それが私である。



いまもう一度会ってみたい人

何十年も前の話。これは、材木屋友人S君の話です。若い時代の淡い思い出は誰でも持っているもの。

今更そんな昔話を話そうとも書くとも思わなかったのですが、そんなタイトルをあてがわれると、昔の恋人の話しか浮かばない。大学三年の時、国際的奉仕団体の世界大会が東京で開催され、その事務局でアルバイトをしていた時の彼女との物語である。世界大会が終了し、実行委員会が解散しても、当然彼女との関係は残った。

親の目を盗んで、当時流行のコンパへも週末夜遅くまで飲み歩いた。

通称ダンパ、いわゆるダンスパーティーにもよく行ったものだ。私自身はまだ大学生。

る。

彼女に会いたい気持ちばかりが先行し、シカゴの気候などあまり気にかけず、スプリングコート一枚でロスからシカゴ便に乗り換えた。

隣席のアメリカ人が「その格好でシカゴへ行くのか。クレージーだ」とあざ笑ったのを今でも覚えている。

そのアメリカ人が言うとおりに、シカゴの寒さは想像を絶していた。ミシガン湖畔のシカゴは氷点下10度と凍てつくほど寒く、鼻水はパリパリと凍り、21歳の若者のエネルギーをも寄せ付けない極寒の地であった。

エバンストンというシカゴ郊外が住所になっていた。

バスを乗り継ぎやつのことで、夕闇迫るその住所にたどり着いたのである。

それは半世紀も前に建てられたような古い、少なくとも低所得者が住むような粗野なアパートであった。

どうしても結婚等という言葉は、いつまでも出せなかった。

そうこうするうち、彼女の新就職先が決まった。

世界大会で働くうちに、彼女にはグローバルな視野が芽生え、海外勤務を志願し、海外駐在員の条件で真珠販売会社に就職した。結婚はしたいものの、学生の身分の複雑な心境で、会社との三年間の契約で渡米する彼女を羽田に見送った。口にくそ出さなかったが、三年後の暗黙の了解は出来ていたと思う。

今のようにメールはなかった時代で、毎週欠かさず手紙は書いた。

一年余後の冬休み、彼女に会いに行く計画を密かに立て、その後も彼女の両親との連絡を取っていたので、その計画を伝えると、訪問着を持っていつて欲しい旨の両親の希望。彼女を驚かせる魂胆もあり、秘密裏にアメリカ・イリノイ州シカゴに単身向かったのである。

でも私の気持ちは踊った。もう少しで彼女に会える。

本当にここに住んでいるのかと表札を探し、啞然としたのである。

確かに彼女の名前はあるが、同列に日本人の男性の名前が連記してあったのである。

兎も角ブザーを鳴らし、ドアを開けた時の彼女の驚愕ぶりは、今でもはっきりと脳裏に焼きついている。

当然、私の突然の来訪に対する驚きと、同棲中の自分の現状をモト彼に見られたという事実に対する動転であったことは、間違いない事実である。

しかし私にとって一瞬の動転はあったものの、手の届かない彼方へ彼女は行ってしまったという事実を冷静に受け止めていたように思う。

両親からの訪問着を手渡し、手を握るどころか、あまり言葉も交わさずに淡々と別れてきたことを今でもはつきりと覚えている。

数週間アメリカ旅行を楽しんで帰国すると、彼女からの手紙が着いていた。

同棲中の彼がインディアナ州で交通事故に遭い、亡くなったというものだった。

ドラマを地で行くようで私にとつて驚きであつたが、気持ちの上では覚めていたものの遠い異国でこのような状況を経験し、さぞ寂しかっただろうと別の意味で同情した。

その後、風の便りで、アメリカ人と結婚したようだ。

裏切られたとはいえ、淡い恋心を抱いたモト彼女に会えるものなら、もう一度会つてみたいと思う。

二人目の孫

あれから40年、今日平成二十年、十二月三十一日、午後三時、男の子の第二の孫が生まれた。孫を持つこと自体、想像つかなかつたが、長女の女の子に『ジージ』と言わ

れるとそのような気がする。

2人目にしては、生まれるまで病院の入退院になり、長女の子も、一人でかわいそうだった。体重は二千八百グラムでこのままでよいそうだ。

今年は、日本に世界に、衝撃的な事件が多かつた。この子が元気に健康で育つようによい名前を選んであげよう。

稜一郎にしました。



「筏体験と熊野古道を歩き、水なすを食す旅」

関西空港に貸切バスが着く頃には、真夏の太陽が影をおとしはじめていた。

東京行の飛行機の出発まで2時間の解散になつた。私達の団体の中で、関西空港を肴にお酒を飲みに行きたい人たちが集まり、場所をさがした。『あつた!』和歌山料理『安愚楽』である。

入口の女将が、とっても店に入つてほしいような顔をしていたが、私達は素通りして、一周まわつて入つた方がお客の価値が上がるような気がする商売根性(いやだなあ)と、自分でも思う。

店の中に入ると、お客は誰もいない、私達だけである。それで先程の女将の顔を納得した。しかし私達が注文している間に、同じ仲

間も加わり、他のお客さんも入り、店は満席になつた。客は客を呼ぶとはよくいったものである。

注文は、バスガイドが推めた和歌山名物、水なすの漬物。関西にきたら関東煮(おでん)、天ぷらとさしみの盛り合せ、を注文した。まず生ビールで乾杯。バスの中の缶ビールより、やはり落ち着いて飲む生ビールはうまい!

やがてテーブルの上を酒の肴で埋めつくし、アルコールも進み、話がはずむ。他のお客さんも注文が多く、のれんの前の女将の顔とは、ニコニコして別人のようだ。

その調子で、6月のサッカーの時、ベッカムが空港に来た様子を話してくれた。やはり年はとってもミーハーだ。ニコニコした女将にお酒をお酌してもらい、ひょうたんから駒の今回の旅行に話題が移つた。

旅行出発は2日前の夕方。浅草橋駅に集まり、京急線で羽田空港まで行き、フェリー乗場の川崎浮島まで行く予定だ。

しかし羽田空港から浮島港まで近すぎて(約2千円くらい)タクシーの運転手は不機嫌になる。2時間待機して2千円では水あげにならず、その上今日に限り、10分で行くところを大渋滞、45分時間をとっていたが50分もかかり、私達の団体の為にフェリーの出発を遅らせてしまった。やっとタクシーが船に横付けしてすぐに出発、5分遅れの出発となった。

窓の外では、羽田空港から離陸するジェット機の航路も夕日に照らされ遠ざかっていく。船内ではすぐ食事の時間だが、食堂は長蛇の列。部屋に帰り明日の身じたくをする。30分経過して食堂へ行くと、ちょうどよかった。バイキングの為、皆さんよく食べた。そのせいか部屋でのアルコールは、あまり進まなかった。それより朝5時50分には下船しな

那智の滝は何回かきている人が多いが、水かさが多く、また朝日がきれいに見える天気の時恵まれ、甘く美味しい水を飲み、霊験あらたかな気分になったのは、私だけではなかっただろう。まだ時間があるので、那智山、那智大社に登る。朝からの階段はきつかったが、ここからの那智の滝も写真と同じように見えた。

下山したらすぐ出発。速玉大社に寄り、熊野市を通り、筏の待つ北山村へ急ぐ。11時半、北山村おくところ温泉観光センターに到着。温泉で一風呂浴びて、昼食をとり仮眠して、筏の出発時刻2時を待つ。朝早いせいか、風呂と仮眠はとても気持ちよかった。

1時半、筏の乗船場まで満員の専用バスに乗る。運転手は山道でありながら、なれてるので、スピードが速い。およそ15分で乗船場へ。川まで下り道を歩いていくと、筏が5艘見えた。

長さ3mで直径30cmぐらいの丸太を6〜7

くてはならず、早く寝るようにする。

12時すぎて、波はなく、船の中はおちついていいるが寝つかれない。3時間ぐらい寝たような気がした時、全員「そこそ起きはじめていたが、昨夜の雨の為、水かさが増して運

行できないと、添乗員から言われていた。その言葉はフェリーに間に合わせた時と同様に、役員になつていいる私につらく聞こえた。

那智勝浦港で降りると、快晴の天気。そのうちに午後便なら筏が運行できるとの情報が入り、『筏に乗れない旅行は、何の為に来たんだ』との声もあつたが、まずひと安心。予定は変更したが、目的は達成できそう。午前に乗る筏が午後になり、今度は時間が余る。そこでまず那智の滝を見に行く。滝の下で朝食のローソンの弁当を広げたが、昨夜の雨で水かさが増し、しぶきが弁当に入るほどだ。食べ終わって300円奉納(支払)すると滝壺まで行け、また出水が飲める。

本横に並べて、その上に丸太と平行にベンチ、手摺がついている。最後尾に荷物筏をつけて、電車という6輻編成のようになっていいる。

もちろん観光筏は全国でこだけ。船頭は前一人、両横に二人ついている。客席は一輻3人ずつ、15人が定員だ。我々も2つのグループに分かれて乗筏した。

出で立ちには、貸してくれる救命胴衣とゴムぞうり、短パンが必要だ。はじめの筏が出発して、続いてすぐ出発。急流をすべるように下ると、すぐ落差のある流れに入る。おもわず喚声があがり、初めて乗る筏の乗りこえがわかる。急流では立っていないと濡れてしまい、流れのゆるやかな所はベンチに馬乗りに座り、ゆっくり川下りが楽しめる。初めの急流を過ぎると、ゆったりとして、前の筏と連結し川を下る。そのあと2つ3つ流れの急なところはあるが、全体的には快晴の中で緑をながめ、森林浴をして、ゆっくり川下りができた。

『筏はこわそう』と思ったが、水がかかるだけで、ひつくりかえることはない。これで昔の人は太平洋、大西洋を渡ったと思うと、その勇氣に感動する。そして船よりも安定しているのが驚きだった。狭いところでは丸太が岩をこすり、それを船頭がうまくあやつるが、見ているとなかなか力のいる仕事にみえる。昔はこの大きさの筏を3日かけて、下流の新宮市まで一人で筏師は運んだそう。いまは役場の人間が町おこしの為に、冬期を除く週末だけ動かしているのが現状であつた。

池のような所を通過する時、前の筏の女の人が許可を得て、川にとびこみ泳ぎはじめた。それをみていた仲間のTさんも一緒に女の人と泳いだ。本人は川で泳いで一生の思い出になると喜んでた。しかし筏に戻ろうとするとゆつくりしている筏も泳ぐより速く、一瞬あせってしまった。

1時間で下船場所に到着し、またバスで温

北区王子などが知られている。

のどが渴き、おなかも空いて、民宿で昼食。あゆめし、あまごの唐揚げは絶品であつた。ここでも温泉があり、入った人によると、肌がつるつるになるいい風呂だそう。ここから2時間以上かかる関西空港へ。大阪に帰る連休の上りが混むので、竜神村を通り、急いで行く。

初めて訪れる関空の全体をながめると、巨大な島だ。人口の鳥がっらなつて巣に帰るようだ。鳥と島、どこか似ている字だ。鳥は象形を表わし、渡り鳥が休むところが山になつているから、島という字になつたらしい。私もきのう本を読んだばかり。

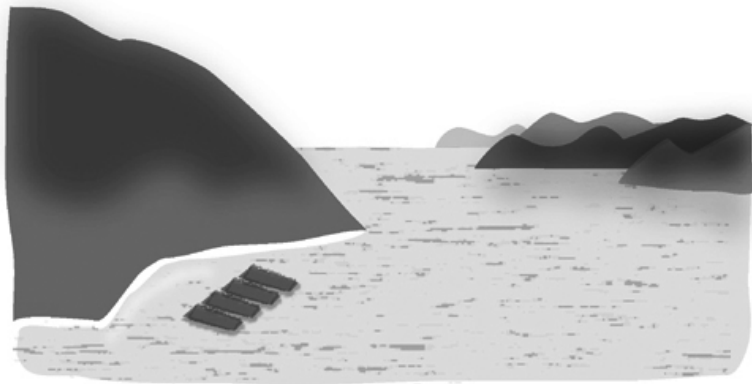
バスは2時間走り、無事関空に着いた。料理もおいしくいただき、酒も飲み、気持ちよくなっていると、出発時刻が近づいた。私達も人工の島の中で、隊列よく並んで、夕陽を背にして東京へ戻った。

泉センターに戻る。時間もせまっているので、今日の宿、川湯温泉へ急ぐ。部屋割を考えたが、喫煙と非喫煙に8対6に別れてあつけなく終了。喫煙者は禁煙者が多くなり、さびしくなつた。

宴会も楽しく終わり、川の石を掘ると温泉が出るというので、夜、全員で川の露天風呂へ行く。星が輝き、森林の中での風呂は、気持ち最高にリラックスさせることができ

た。翌日、バイキングの朝食も終わり、9時出発。熊野本宮大社を見学。これで熊野三山すべてを廻り、御利益もそうとうあるだろう。

10時より熊野古道の中でいちばん楽なコースを歩く。いい天気、説明員の女の人について歩く。NHKの『ほんまもん』の舞台のころをみて歩き、1時間半で近露王子に着く。王子とは、平安時代に京都から熊野詣の為に建てられた宿のことで、東京では八王子、



保険厚生委員会企画

上野・鈴木演芸場

「落語を楽しむ会」

開催日：平成26年2月22日（土）

「落語を楽しむ会」も第6回目と回を重ねて、今年も2週続いた大雪が心配されたが、開場前に組合員さんが並んだ頃には、入れ込み太鼓が打ち鳴らされて、日差しも冬らしい陽射しとなった。

正午前には事務局より、弁当、つまみ、ビールを受け取り、順次3階の団体指定席に90名近くが座った。美味しい弁当を食べ、ビールを飲み、つまみを食べる頃には前座の落語が始まった。

圓太郎、一九と落語二題が続き、寄席らしく色物の千円を観客から借りたアサダ二

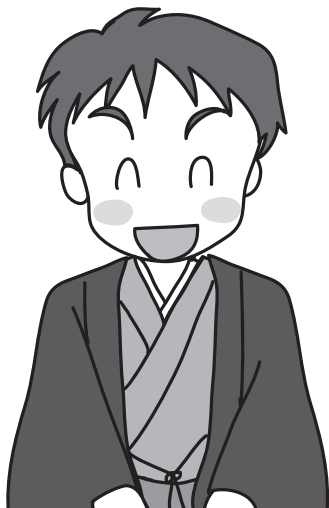
世の奇術、姉妹漫才・ニックス、忠臣蔵の一節の講談・琴調、ジャグリング・中国駒のストリート松浦と続いた。

中盤は落語・正朝の本妻と妾があのお世でも火の玉がぶつかるけんか話、小菊さんの粋な三味線で都々逸。仲入り前には、上手で面白い強面の人気実力者の文左衛門が、おなじみ「時そば」を。内容が分かっているても、演者によつてこれ程変わるのかと見せつけられる。特に、そばを食べる音としぐさは、観て聞いているだけで、味まで分かるような感じで楽しめた。

笑いとは、次に演者が発する言葉が客に分かつていても、言葉を発した瞬間に笑ってしまうのが本当の笑いで、プロの芸人だそうだと仲入り後、年季の入った初老のホームランの漫才、落語の藤兵衛、小ゑんと続き、取りは一朝さんの、たつぷりと「くずや」の真面目すぎる話を聞いて、お開きとなった。

玄関では前座さんの『ありがとーございました』の聲がひびき、ハネ太鼓が暮れ色に染まった空に鳴り渡った。

私はそばを食べる音が耳に残り、友人と上野「藪そば」に駆け込んだ。江戸の風情の寄席を楽しんだ後、つまみの苔をあぶりながら熱燗を飲みつつ、ざるそばを待った。好日であった。



なぜ材木屋を継いだか

私には姉が3人にて、長女が婿をとり、材木屋を継ぐ予定で、婿さんを見つけていて、長女も商売人に向いていました。高校を出て会社で事務をして、お客さんの受けもよく、本人もそのつもりをしていました。長女とは10歳の年の差があり、事務をしている時は私は小学生でした。

一方、自分は将来何になるかを考えて、漠然と医者になろうと思いました。姉たちは3人とも市川と同じ私立中学へ進みましたが、私は何も考えず地元の中学に行きました。中学2年の時、数学の佐藤先生が担任になり、理科の繁田先生も好きになり、成績も理科系がよくなり、医者になる希望が出て来ました。高校より大学付属の医科系

の高校を目指して、受験してみることにしました。

この頃になると、姉たちも嫁に行く先がまとまりはじめたこともあり、もし理科系に入れなかったら文科系に入り、父も高齢なので、親父の跡を継ごうかなという気持ちも芽生えてきました。

4年前の2月10日、その日は東京でもまれにみる大雪で、総武線の当時茶色の電車もドアが閉まらず、ロープをして駅員が乗り、電車が出ました。父も一緒にいてきて、試験会場で待っていました。翌日一人で医科系の高校へ行きました。よく出来たつもりでしたが、受験番号はありません。同じ中学の私より成績のよくない人が合格していました。

私には合わないのかと思い、文科系の高校には入れたので、そのまま流されて大学に行き、その後2年間、千葉の材木屋に修行に行きましたが、父が心臓を患い、戻るこ

になり、この仕事に就きました。

今、振り返ると、組合の人々との旅行や会合に出ることができ、細菌の中で働く医者より、健康的でよかったです。

1ヶ月程前、恩師・中学生の時担任の佐藤先生は肺を患い、酸素チューブを使うような姿になり、自宅へ友人と行ってきました。20年ぶりに会う先生は、お歳をめされていました。記念に、先生がデジカメで写真を撮って送っていただき、さすが理科系の先生はすごいなと思いました。

半年後、息子さんより訃報が届きました。ご冥福をお祈りします。



数の読み方の話

皆さんは大きい数と、小さい数をどこまで覚えていますか？私はふと考えた時には、京と毛までは知っていました。子供に尋ねるとソロバン学校の裏表紙に載っていると、意味も調べてみました。

大きい数は無限になり、小さい数は細くなりはるかになり、曖昧になり空しくなり汚れない世界になりました。お彼岸の近い今日この頃、この単位の漢字を眺めていると、全てが最後に無限な極楽浄土に行き着くと思いました。



一分厘毛

糸 (し) 忽 (こつ)
微 (び) 纖 (せん)
沙 (しゃ) 塵 (じん)
埃 (あい) 渺 (びょう)
漠 (ばく) 模糊 (もこ)
逡巡 (しゅんじゅん)

須臾 (しゅゆ)
瞬息 (しゅんそく)
彈指 (だんし)
刹那 (せつな)
時間の最小単位
六徳 (りっとく)
虚 (きょ)
空 (くう)
清 (せい)
浄 (じょう)

小さくなる

一十百千万億兆

京 (けい) 兆の1万倍
垓 (が)
杼 (じょ) 京の1万倍
穰 (じょう)
溝 (こう)
澗 (かん)
正 (せい)
載 (さい)
極 (ごく)
恒河沙 (ごうがしゃ)
阿僧祇 (あそうぎ) 十の56乗
那由他 (なゆた) 十の60乗
不可思議 (ふかしぎ)

人間の認識の限界を超えていること
無量大数 (むりょうだいすう)
計ることが出来ないほど大きい

大きくなる

小学館大辞泉より参考にしました

「屋久島・縄文杉」

登山紀行

― 荒川支部同行記 ―

11月3日 曇り空の羽田空港に定刻に全員集合して、屋久島行き荒川支部旅行は始まった。

まずは旅行の無事を祈って日本酒で乾杯。荷物検査をくぐり、鹿児島行きのJASゲートへ向かった。皆さんの間では明日の登山の天気が話題になっていたが、どうやら晴れらしい。しかし、前に私が行った時は大雨にたたられ、今回は再挑戦である。天気も心配だが、自分の足腰も心配。運動しようと思っていたが、ついに出発の日を迎えてしまった。飛行機は順調に鹿児島空港に着き、屋久

島行きYS11に乗り換える為、45分の休憩である。空はここも曇り。気温21度、東京より5度高いので、着ているものを一枚脱ぎたいくらいだ。YS11は満席で離陸し、これから35分間の飛行。下の海に見える飛び魚らしき魚や島影をみながら、無事屋久島に着陸した。気温23度の屋久島は湿度も高く、さすが『南国へ来たな』と、皆さん口々に言っていた。

すぐにマイクロバスに乗り、田代ガイドの案内にて出発。直径42kmの屋久島は、岩盤でできており、大昔の山々が沈んで、山頂近くが海から切り立っている周囲を形成した。

バスは信号もなく軽快に走った。途中、酒屋に寄り、飛行機の中で渴いた喉をうるおす為、アルコールの買い入れを行う。

丸い屋久島を時計の反対方向に廻り、宮之浦を通り、志戸子ガジナル公園に着く。ガジナルは、骨だらけのような木が水中に枝を下げ、大きく根のようになった南国らし

い植物。ここでは樹齢五百年の巨大ガジナルが圧巻であり、その前で記念写真を撮った。そして時計方向に戻り、宮之浦にて屋久島環境文化センターを見学。屋久島の歴史や気候、屋久杉について、パネルやドーム型映画で勉強する。

3時過ぎ、そこから10分の田代別館が今日の宿となる。各人、旅の疲れと明日の山登りの為に英気を養う。

私と新井さん、田中さんの奥さんと田代案内人で白谷雲水峡へ行く。田代さんの車で40分の山道を登りつめて、ここの公園入口に着く。さすが屋久島、車に力をかけなくてよいそうで、邪魔になつたらどうかしてもらった。なんと『おおらか』。

そこから40分、岩の上に登り、整備された木の階段を登る。足場板をたくさん並べた遊歩道だ。溪谷や苔のじゅうたんが美しい森を抜け、樹齢三千年の弥生杉で休憩。田代案内人が『ここまで1時間コースを40分で来

たから、明日の縄文杉登山の体力は大丈夫ですよ』と言われ、三人でなんとなく明日への自信がもてた。

弥生杉の近くに無造作に出ている『水』を口に含むと、水の甘みが口一杯に広がっていた。田代さんによると、屋久島の中で高度の低い方が、水が森にさらされていて、おいしいそうだ。今まで生きてきた中で、私はこの水が一番美味しかった。

白谷雲水峡は、宮崎駿が『もののけ姫』の構想を何日も山にこもり考えた所だそうで、あの映画を思い出していただければ、それが現実になったようなところだった。公園口におりた頃には暗くなり、帰りの車はライトが必要になっていた。

旅館に帰ると、皆さんが待っておられたので、急いで風呂に入り、夕飯に向かう。まずは松永さん、青木さんのあいさつ。また、お世話になっている武田産業さんも来ていただき、宴会が始まった。どんどん酒が進む

明日の観光組、なんとなく躊躇した山登り組。明日の為に早く宴会も切り上げる。

10時には寝るようにしたが、なかなか寝つかけれない。外を見たら、「星が出ているから、おそらく行けるだろう」と考えていると、となりの部屋の若いグループが騒いでいる。窓越しにビールを差し入れして話をしたが、『私達、明日縄文杉登山だから早く寝る』と言ったら、『今日、あたしたち行ってきた』と言う。よく聞いたら、ヤクスギランドらしい。私たちは『これはだめだ、早く寝よう』と切り上げた。しかし寝つけない。1時間ごとに見目が覚める。

11月4日 朝4時。『いくぞー』の合図で山登り組、起きる。

5時、バスで登り口の荒川ダムへ向け出発する。バスの中でうとうとしていると、安房より山道をどんどん登ってバスは走る。ほかの登山グループもあり、荒川ダム近くになると

トンネルを抜け、安房川に沿って進む。小鳥のさえずりが聞こえ、左手よりチヨロチヨロと山の斜面を伝う水。右にカーブする軌道を進み、再び大きな鉄橋を渡ると、小杉谷小学校跡である。そこで朝食。弁当を食べる人、おにぎりを食べる人。

案内人が『1時間歩くと、ちょうどお腹もすき、朝食にはよい頃です』と言っていた。早々に朝食をすませ、まわりを見渡すと、芝というか、朝霧のついた杉の苗の5cmくらいのものが、小学校跡地一面に生えており、その美しさと、自然の厳しさに感嘆した。そのころ一日2回のトロツコが対岸をタイフォンを鳴らして走っていた。

30分の朝食のち出発。木々の間越しに見下ろす溪谷美に気分もさわやかになる。水はいたるところで沢となり、『屋久島にいるんだなあ』とつくづく実感する。その間にも、50才を過ぎた女性たちのグループに『こんにちは』と言われて、抜きさられてしまう。

少し渋滞になる。6時、荒川ダムに到着し、体操をして洗面、装備の点検、出発に備える。まだあたりは暗く、懐中電燈は必需品だ。

6時30分出発。川沿いに5分歩いたところでトロツコの鉄橋を渡る。手摺をつけると原木がぶつかるそうで、できないとのこと。うす暗い鉄橋を足場板2枚の中を歩くのは、足がすくむ。しかし、落ちた人は、高校生がふざけていたのが唯一で、それ以外、事故はない。私は対岸を見たり、ライトで下を見たりして、皆さんに遅れないように歩く。

橋を渡るとトロツコ道。枕木は不揃いで、足の歩調がとれない。しかし、案内人は時速5kmのペースで引つ張っていく。私は田中さんと一緒に一番うしろにいた。自由に写真をとる為である。しかし、カメラを構えていると、すぐに距離があいてしまい、心してかからないと遅れてしまう。皆さんの足取りは軽く速い。

日頃、体力のないことが自分に降りかかる。休憩も自然と多くなり、案内人は『もうすこし』と言うだけ。出発してから2時間以上が経過。脇目もふらず、ただ黙々と歩き続け、視線もいつの間にか下に向き、あたりの雰囲気を楽しむ余裕は薄れてしまった。

そして最後のトイレ休憩。汚物はトロツコでおろせるとのこと。ここでトイレは終わりで、アメをなめ、バナナ、チヨコレートで糖分をとり、水を飲んで出発する。夏はトイレの臭いが充満してしまいそうである。11月でも今日は天気がよいので、臭いは残った。何かよい方法はないかと思う。

すぐに三代杉、みなさんで記念写真。スピードは落ちたが、時速4kmのペース。9時、トロツコと別れ、大株歩道入口に着く。トロツコ道は続いているが、走れるような状態ではないくらい破損している。屋久島中にトロツコ道は作られたようだ。そこは橋桁の丸太が流されて、線路だけが露出していた。ここで小

休止。ここからすべて上り階段。縄文杉まであと2時間のコースタイムである。

9時、大株歩道入口出発。一気に急な登山道となる。足が重い、場所によつては岩や木につかまり懸命に登る。樹林帯なので暑さはさほど感じない。視線は足元に集中している。苔むした岩や木の根、しかし人の通るところは苔がなく、根がむき出しになっている。歩くのにはよいが、登山者が土を払ってしまった結果であろう。いかに縄文杉をめざす観光客が多く訪れるかの証だろう。申し訳ない気持ちはあるが、いまは登るので精一杯。

30分ほどで翁杉おきな。標高千m、もうすぐウイルソン株だ。45分でウイルソン株というが、1時間以上かかってしまった。我々50〜60才代の持久力の低下を物語っている。ウイルソン株で15分休憩、全員で記念写真。4帖半ほどもある株の中で沢水を口にひたす。日差しも森林に遮られ、各人リラックスタイム。

場がよくなり、黙々と歩くだけでよくなった。それを30分歩くと、上の方から歓声。や々と縄文杉に辿り着いた。

とにかく大きい、想像以上にでかい、迫力も超満点だ。そばまで行つて触つてみたいが、縄文杉を保護する為に木の柵が巡らされており、触れることはできない。七二〇〇才という大長老に会えて、本当に嬉しかった。すぐ弁当、水を口に入れ、腹がおさまったところで記念写真。次から次と来る登山者に縄文杉デッキは満員。私も記念の一枚のシャッターを押した。

30分休憩、12時30分下山。帰路も同じ道を引き返したが、行きに大きいと感じた杉も、縄文杉や大王杉を見た後では小さく目に映った。下りは、ひざとふくらはぎに筋肉硬直を起こさないよう菓を塗つて下山。思つたより早く進む。ウイルソン株、トロコ道に出たところで小休止。トロコ道は、また時速5kmで歩く。トンネルを抜け、大鉄橋を

気持ちよく休んでいると、案内人の出発の声。上り道、沢渡り、気を抜くと頭に風倒木が当たる。

相変わらず、あとから来たグループに抜かされ、下つてきた人からは、『もうすこし』の声しか聞こえない。急な上りが続き、次第に息遣いも荒くなり、木を頼りにする手はいつしか両手になつていった。木の階段に差しかかると腰に両手を当てたり、太股に手を置き、前傾姿勢で『ヨイショ』と足を持ち上げ、ゆつくり登る。額に汗がにじみ、数歩進んでは息を整え、また足を動かす。

いつしか丸太の階段を登ると大王杉である。私はカメラを出したが、撮ることは撮ったという状態。ここから5分の夫婦杉では、カメラを出す元気もなくなった。最後の力を振り絞つていくと、平成11年度、世界遺産になった屋久島に予算が下りて整備された木道になる。前に登った青木さんは、これがなくて大変だっただろう。私たちは、それにより足

渡り、荒川ダムに到着したのは、午後4時であった。

迎えのバスは渋滞の為、30分遅れてきた。観光組がバスの中にいて、『皆さん元気だね』といわれたが、返す言葉もなく返事もできない。観光組はおいしい昼食の話をしていたが、それを聞いているうちに眠ってしまった。次に屋久島に来たら、屋久島名物をたらふく食べようと思った。

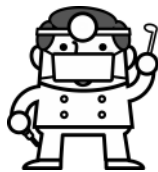
田代別館に5時半到着。風呂に入り、宴会。女将の屋久島の踊りをみせてもらうが、気もそぞろ。観光組だけ元気がよい。おのずと口数も少なくなる。武田産業の若い社員の方は、縄文杉往復を5時間でしたという。ほとんど走っていたそうだ。それを聞いて余計に疲れが増す。いつしか一人減り二人減り、お開きとなる。念願の縄文杉が見られ、『今日は、ぐっすり眠れそうだ』

11月5日 曇り、丸い屋久島を時計の反対方向に廻る。今日は観光。永田浜の海亀の産卵海岸、大川おおがの滝を見て、フルーツガーデン。おいしい南国のジュースを飲んでいるご夫婦は、何十年か前の新婚旅行当時を振り返っているように見受けられた。

昼食は屋久島いわさきホテル。ハイグレードなホテルでワインを飲み、気分一新、優雅な気分になる。安房にある武田産業の貯木場を見学。鹿児島行き最終便YS11に乗る。口々に『また来たいね』の声、私もまた来たい。離陸した飛行機の窓から、屋久島のあかりと白い波間が見えて、楽しかった旅行も無事、終わりを告げた。



歯医者の思い出



二人目の歯医者

歯がとれた！

前歯のいちばんめだつ所がとれた。この歯は、卒業して、3月初めに父の勧めで、千葉の、大和田の所の新しく店をかまえた。駿遠材業という住み込みでの店だった。3月末に卒業式で東京に帰り、前歯が虫歯のようで舌でひっかかり、鏡を見ると、黒くなっていて、卒業写真は、バカっぽく写っていた。4月より、厚生保険も届かぬ時、会社近くの、新興住宅街の新しく、開業した歯医者に行った。「前歯が黒くてみっともないんです」とすると、電動ヤスリの歯医者独特の「キューン」という音が、体中にひびいた。先生は、ちよと手を休めると、「君は保険だったかね」と言われて「僕は、現金で支払います。」と言っ

たら、「もう少しやらなくちゃ」と言って黒い部分をとってくれた。そして、さし歯を作る為、色合わせをした。「君は白い歯だね」と言っつけてくれた。あれから40年、使い続けて、今日、とれてしまった。現金で払ってよかった！？

一人目の歯医者

藤や君おいで！

小学校3年生の時、一人目の歯医者に行った当時、10人位待っていて、すわってマンガを読んでいた。2人目に「藤や君おいで」の先生の声、僕は「笹本だ」どうして藤や君（屋号）なんだろう。「藤や君、こっちにすわって」どうして、8人抜きに、自分が呼ばれたかは、わからなかったが、父に話したら、「総金歯にした会長が、あの歯医者に100万支払ったんだから、お前は、早く呼ばれたんだろう」と言われた。待たないでよかったが、それってありかなあがてんがいかなかった

た。

三人目の歯医者 金歯を入れた！

奥の歯が、虫歯になり金をかぶせることになった。「1本5万円だけいいかね」と、先生に言われた。「そんな高いんですか？」「保険もあるけど、もちがちがうよ」「でも高いよなあ」と言ったら、「5万円は高いかもしれないが、君はこれから、1口に30回噛むし、何年も、もつんだから、それを考えた方がよいよ。1回いくらもしないんだから」

納得して、金歯を入れた。おかげさまで、30年もっている。安いのか、高いのかわからない商売は、高い商品は、少ない単位でお客様に説明して、安い商品は、束にしてこんなにあって、いくら、と説明する実践した例だろう。最近、金歯がどんどんとれていくと、妻が喜ぶ。これで指輪を作るだつて あゝあ！

ハイレゾは オーディオ界の救世主か？

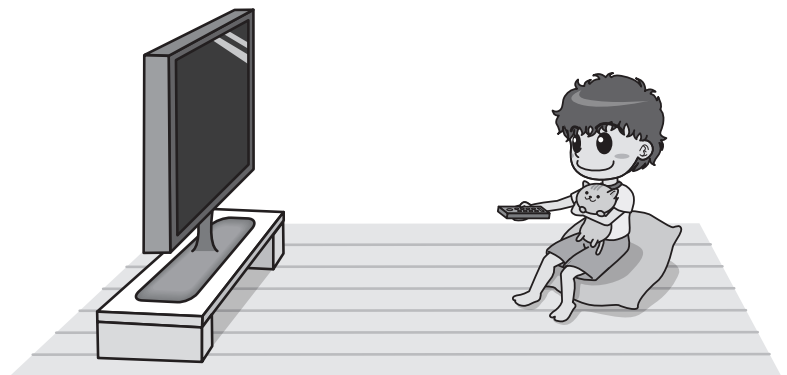
ソニーよりハイレゾリユージョンのコンポが出た。パソコン対応の音源を、より誠実に分析し、スピーカーより出す為だ。今の主流は、アナログに変換しないと音が出ない。次世代のコンポは、そのままデジタル方式で音が出る。その音が「耳さわりよく出るか」、と言えば、はなはだ疑問だ。業界は、今までのすべてのオーディオ機器（音源↓増幅↓音出し）をハイレゾにして、聞く人に買わせるつもりで評論家を使い宣伝している。業界も、新しい機器が売れないと死活問題だ。まして、若い人は、スピーカーなど室内の場所をとられているより、そこそこの音で、スマホ又はヘッドフォンへの人気が高まっている。業界は縮小傾向は否めない。よく考えると、そこ

四人目、五人目の歯医者

もう、25年かよった墨田区の先生は、治療の日数を言ってくれた。「笹本さん、3回はこの歯で来てください」すると、3回行けば、終ると思って頑張っていた。先生もお年になられたと思っていたら、「大先生は、引退しました」、息子さんが、継いでいたので、そのまま、かよい続けている。別の日墨田区内の内科の先生に話していたら、あの先生とゴルフ仲間だそうで「先生、引退した」と聞いて驚いていた。内科の先生も、「開業医は、疲れるよ」と言っていた。その先生に、十年前、「先生、風邪ひいたんです」といった。のどがいたいです。でも「景気が悪くて、頭もいたいんです」と言ったら「僕は、風邪はなおしても、景気はなおせないよ」と、言われてしまった。

まで分析して、音を出して、レベルがよいから、とか数値で考えてしまい、本当にいい音と感じて聞いているのか、本人もわからなくなってきた。いろいろなフィルターをかけずに、よいものはよいと感ずる心が必要だろう。テレビにしても、2K（※よくこまかく映る単位）、3Kテレビ、4K、医学用には8Kテレビまでも出来そう。2K、3Kは景色をより詳細に写してよかったが、4Kになると、大河ドラマのかつらの線がくつきり出てしまい、「そこまで、見えなくてもよい」と視聴者は感じるだろう。富士山も、遠くで見れば、きれいだが、富士山に登ると、トイレの紙、ゴミ、の山になつていて、世界遺産に正規に登録されていない。また立体テレビも去年まで展示されていたが、10分ためしに見たら、目が寄ってしまい、疲れてしまった。だから私に限らず売れなくなってしまった。昔、「みえすぎちゃって困るの」のマスプロアンテナの宣伝のおねえさんがいたが、今は、毛

穴まで見えてしまうのは、人間を判断できなくなってしまう。彼女を選ぶ時、毛穴まで見て、判断しない。全体を見て、ふんいきを、体型を見て、好きになるだろう。それによって、パーツ人間が増えてしまい、全体のみわたす考え、眼力がなくなってくる。もっとおらかな考え、見識をもってほしい、今日この頃です。



厚生行事 「屋形船川下り」

今年は石川さゆりショーに続き、秋の夕暮時、屋形船にのる親睦会を企画しました。

10月13日（土）4時30分、神田川にかかる浅草橋のたもと、船宿『田中屋』に集合。80名の大人数なので、大型船52名、中型船28名に分け、支部ごとに乗船しました。

まず大型船は予定通り4時30分に出港し、お台場方面に向いました。船着場の関係でその後、中型船が入り、多少遅れましたが5時には出港。

私は中型船に乗船したが、土曜日だけに多くの行き交う観光船、屋形船によって波が多く立ち、その向い波を蹴り遅れを取り戻す為、屋形船にしては速度を上げて疾走した。『これじゃ酒を飲む前に船酔いになってし

まいそう』と言っている賑やかな人々もいました。

行き交う船も減り、新大橋をくぐった所で屋形船本来ののんびりした速度になり、刺身、ビール、揚げたての天ぷらがテーブルを占拠して、お腹を満たしてくれました。飲んだり食ったりしているうちに東京ゲートブリッジに着き、全景を眺めながら停船。先の船はゲートブリッジの橋桁をくぐり、回ったようだ。

その後フジテレビの前の御台場で30分休憩。カラオケが始まりカラオケ好きな人のワンマンショーに本人が酔いしれていました。休憩をしていると、ハシケの様な小さな船がアイスクリームとか佃煮を売りに接船して来た。色々な商売があるものだ。東南アジアではよく見かける風景だが、ここで見られるとは思いませんでした。

先発の大型船と近くなり、お互い手を振りながら大型船は先にスカイツリー方面に向

い、その後を追いかけるように中型船も動き出しました。

隅田川にも新しい橋が多くなり、勝鬨橋、佃大橋、中央大橋、相生橋、永代橋、隅田川大橋、清洲橋：さくら橋までの18橋を川上りして、川風に吹かれながら変わりゆく東京をお夫婦で楽しんでいる方々が多かった。

両国橋を過ぎてスカイツリーが見えても、皆さん見慣れているせい、あまり興味が無い様だった。船に3時間も乗り、お酒とご馳走、それに夜景と川風で気持ち良い疲労感を楽しまれている様子でした。その後、定刻8地に浅草橋に接岸して、皆さん家路に向かわれました。

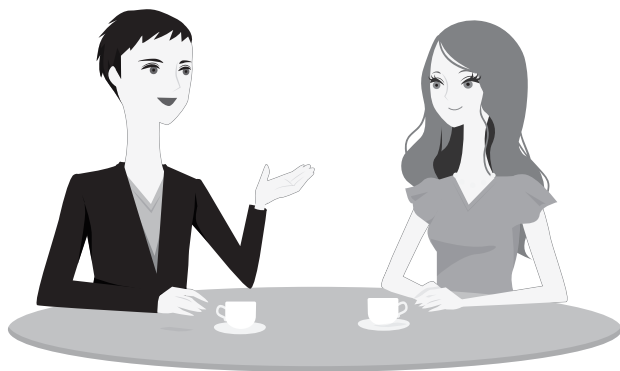
すいかと玉ねぎ

人は、思いもよらぬ金が入った時、どうするか？ 男は、「すいか」。まず、車を買って家を買ってギャンブル、酒、女に走る。すべて、他人の為に使う。つまり、種を社会にまきちらす。女は、エステ、指輪、衣服、たまに男に走る。すべて、自分の為に投資する。だから、「玉ねぎ」だ。しんのまわりにどんな皮をつけていくと、先輩に言われた。男と女は、違うことを忘れてきた。ジェンダーフリーなどということになったり、肉食女子、草食男子など、性を乗り越えることは出来ないことを忘れてきてしまった。昔、永六輔が、「テレビの普及は、男にも、女にも、受け入れられるテレビ番組を作らないと視聴率が上がらない」と言っていたがまさに、今、視聴率をとるのはおねえ番組になつてしまつ



た。男は女の美貌にほれ、女は男の才能にほれる。昔がよいのかわからないが、夢をなくした、今日この頃だろう。私も年を重ねたのかなあー。

男は目で恋をする。女は耳で恋をする。あなたにあてはまりますか？



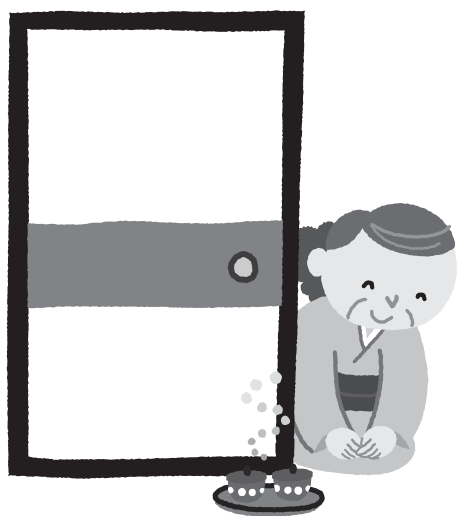
温泉の思い出 山田温泉

会社で、いつもお取り引きさせていただいて
いる方々を順番に、夫婦で、山田温泉 高
級旅館でなかなか空のない藤井荘に何組も招
待した。ほぼ招待も終わり、自分と妻でで
かけた。なつかしいJRの在来線あさま号に
ゆられて、長野駅へ。善光寺に行つてそばを
たぐて、長野電鉄のガラスキの特急で須坂へ。
田中家を見学、そこから路線バスに乗つて、
山田温泉に到着したのは15時頃だった。お客
様と同じ特別室に入った。その部屋は竹やぶ
の中につき出して、両窓には、川の流れと、
遠くの山並みが、みわたせて、最高の部屋だっ
た。さっそく、自室の木の風呂に、入る。
体を洗い、湯舟につかり、「あゝあ」湯に入

るとなぜかこのため息が出る。木の風呂、め
ずらしいなあと思いつつ、出る予定で、軽く
足をのぼして、床につけた。すると、足がすべつ
てしまい、湯舟の柵にコカン（かかん）をぶつけてしまっ
た。いたい、いたい、何ともいえずいたい。立つ
ていた方がよい。風呂で悪戦苦闘していると、
声で、妻が入ってきた。「何しているの 大き
い声出して」「打つたんだよ、いてえんだよ」
「バカじゃないの」と冷たい返事。「夕飯まで、
寝てればなおるわよ」その通り、ふとんを
敷いてもらつて寝てみた。寝るとよけい痛い。
立っているのがいちばんよい。田舎の一週遅れ
の先週見たテレビ番組を見ながら、夕飯を
待った。「夕飯はお部屋食ですので、御用意
いたします」おいしそうな山の幸がならん
だ。妻はもくもくと食べる。美味しいわねえー
の聲が、おぞましい。女中さんが来ると、
すわつて食べる。部屋から出ていくと、立つ
て食べた。それを何度もうりかえす。志村
けんのコントのようだ。寝るのも立つようにし

いままで健康にきました。

て睡眠をとつて、朝の鳥の聲がやつと聞こえ
た。朝食を部屋食で立ったり座ったりして、
女中さんにバレないようにして食べた。フロ
ントで泌尿器科の先生をさがしてもらうが、
長野市まで行かないとないとのこと。朝食も
そそくさと、タクシーで教えてもらった医者
に向う。保険証はないので実費で払い、あと
で組合でもらうとのこと。先生に診察しても
らつたら『たいした事はないですよ』と言わ
れて、長野駅へ向う。お土産も適当に、指
定席も、一つ前のあさま号で帰路につく。
グリーン車にしたが、ゆれる。痛い、ゆれる、
痛いのくりかえしで定刻上野駅に着く。すぐ
タクシーで家へ向つた。家イコール会社の前で
は、いつもとくに帰っている社員全員が外に
出ていて、帰るしたく中。そこへタクシーが入っ
て来たから、全員集まってくる。どうしたの
と心配そうな人々をしり目に、だいじょうぶ
と、いたいコカン（かかん）をいたくなさそうに家に入っ
た。おかげで、近くの医者にも診てもらい、



私の決めた かつてな自慢①

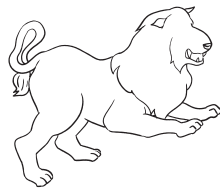
昭和六十年、(株)丸吉という建材問屋の仕入れ先の新年会で、社会教育家、田中真澄先生なる者の講演を聞いた。人生は百才まで生きる時代に入った。退職が60才で、他界が、70才の余生の時代は終った。百才までの人生の予定を立てなければ、最後はつまらない人生で、つまらない死に方をする。最後は、みなさんさようなら、と言える人生を送ってほしい、という内容であった。その為には、人の生きる道は、田中流に、あいつ、返事、靴をそろえる、の三つの動作は、基本で、幼稚園でも教えることが出来ていない。まず、三つの事を、今日から実行して下さい、「今日からが始まり」を力説した。

いまでも、いろいろな営業マンが来ると、実行させていることがある。自分もそこからすぐ当日帰ってきて始めた。仏教では、脚下(きやくか)照顧(そご)（足をいつも見て、歩く）みたいなことだが、毎日、会社に行く前に家族全員の靴をそろえて会社に行く。帰ってきたらすべての靴をそろえて上る。これだけを毎日続けた。そして今日も続けている。母が5才位の時、よその玄関を見て靴がそろえてあるのを見て、『家でも、いつもそうしたいねえ』と言っていた。「こうすれば、盗人も入らないし、となりの家に盗みに入ってくれる」とさとされていた。まるつきり忘れていた。5年経過し、ある日、組合で酒を飲んで帰ってきた。なんと、靴がきれいにそろえてあるではないか！「誰か靴をそろえたのか？」と言ったら、5才の娘が「智ちゃん、そろえておいた」と言う。自分のやつてきた事は、5年かかったが、わかってくれた娘がいることが幸せだった。会社に来る人には、いつもこの

話をする。父になり、男の背中で育つとはどういう事なのか、と問いたです。しかし、毎回深夜まで働いているおとうさんは、子供と会う機会がない。友人の銀行員が、おくさんから言われた。子供が、「おとうさんいるの」。さみしい話であった。この時のアドバイスは、夜、おそくなつても、必ず子供の手を握って声を出さず「ただいま」、また、朝出かける時には、手を握って声を出さず「いってきます」はしろよ。奥さんがせつかく寝かせても、おこされると困るが、ぜひ実行してほしい。そうすれば、休みの日に公園に行った時に、手をつなげば子供は必ず知っている。おとうさんの存在が必ずわかるから、子供は安心、安全を求めている。気をかけてあげれば、もつと帰ってくる。最近、元気をもらったという表現がいいかもしれない



獅子の会



2012年

今年の例会は神田駅より徒歩2分、「(神田)カンダラ、肉・ロック」という名前のライブハウスで、4月18日、午後7時より、参加者34名で、店を貸切にして行つた。

昨年は神田神宮で還暦のお祓いをしたが、その後、一年先輩の男坂倶楽部、一年後輩の明潮会と同じく神田神宮で行つた。

私たちの学年が先駆者となり慣例になればよいかも知れません。7時集合と言えど、水曜日という事で会社帰りの人も多く、最初はまばらで8時には全員集合した。

1970年代の高校時代の深夜放送黎明期の曲をリクエストしておいたので、あの頃の曲を聞けばあの頃の感情が懐かしく甦る。

しい一日を過ごせば英気も養われ40年の社会人生から解放され、今度は自分の人生の目標が見つかる様な今日の一日になれば良いと思ひました。自由な懐かしい時間は早いもので、もう10時になり、ほろ酔いながら校歌を合唱して解散した。



2014年

昭和45年度卒業の獅子の会は、新年会、花見会、花火会、暑氣払い、忘年会と、1年間に5回ほど集まっています。昨年は、入間航空祭、吉田繁夫君のライブ、そばを

音楽が、店内を包み込んだ。久しぶりに参加したのは、定年を迎えて時間が取れる様になった人が参加していた。しかしまだ8割の人が仕事に携わっている人でした。今年のテーマは『新しい100年へ、今を知り、明日を考える』ですが、我々は明治高校200周年記念は残念ながら生きながらえていられません。前回同機械の吉田君(浴風会病院院長)のお教で『10年を生きる目標を立てるには、60代前半の生活態度が70年代前半の健康を予測できる』と言っていました。でもその目標にしては「カロリーの多い肉、香辛料と塩分の大量に入つた酒の肴で会合を開くとは?と思うのですが?でも今日は久しぶりの友人と楽しい会話、自分好みのお酒を酌み交わして、若き日の懐かしい日々タイムスリップして、懐かしい音楽を聞き、ボーカルのオリエちゃんを見れば、若さが甦り、一日の清涼剤になれば?それでもいいかな!あと10年間しか自由に動けない人生ですが楽

食す会、きき酒会と、何かとこじつけて集まる機会が多くなりました。還暦を過ぎて、退職も増えて、会合に各人の合つた時だけ出席します。毎回メンバーは変わりますが、25人以上は集合します。

皆さん酒が入ると出てくる話は、クラブ活動はどこか、チーターに何回たかれたか、早弁、男坂のうさぎ跳び、真冬の受験生に見せるパンツだけのマラソン、前の神田女学園を見ていたこと、目が合うとビンタの先生、笑つてビンタの先生、眠い授業の先生…。俺たちが高校生の時、あの先生は何才だったのだろう…恩師も多数、天国に逝かれてしまいました。

卒業して45年の月日が過ぎ去っても、集まると一瞬にして高校生に戻ってしまうようです。ひと時が過ぎると仕事の話や家族の話になり、二次会は全員席を変えて、お互いの学生時代の印象などの話が出ます。

人生終盤のこの時に、会合に参加して青春

の1ページを気軽に話せる今を楽しんでいるようです。獅子の会は、吉田耕太郎幹事長を中心に、比留間事務局長が、同期の医師の吉田君にメタボであることを叱られつつ、ぜひとも頑張り続けてほしいと思います。三年前、獅子の会が神田明神で還暦祝いを行いました。その後、還暦祝いを行うことが恒例となりましたが、これからもぜひ続けてほしいと思います。

【獅子の会 私が選んだ有名人

（アイウエオ順）】

- ① 稲村一郎君 ハワイ、イタリアレストラン「アランチーノ」3店舗
- ② 大石喜代司君 浅草伝法院通り、かりんとうまんじゅう「安心や」
- ③ 河田 勇君 東日本橋「蛇の目寿司」
- ④ 櫻井久昭君 競輪生活38年、第17代競輪王
- ⑤ 中野和博君 向島 肴料理「魚喜代」

ねこの思い出



薬剤会社から、ネコ撃退のスプレーが発売された。ネコに困っている人もたくさんいるらしいから商売になるようだ。ネコが通ると感知して、水の霧をふき出しネコが驚きそこに近づくなくなるスプレーだ。4500円もするしろものだ。本当に効果があるかは、これからだ。私のネコ撃退には、涙ぐましい努力のたまものがある。下町には、野良猫に深夜、エサをまきに来る人がある。おまわりさんに言ったら、「その人は 動物愛護のよう

⑥ 平沼孝之君 そば教室主催、浅草「蕎麦上人」

⑦ 前田治行君 テレビディレクター、明中高応援団ノンフィクション番組制作

⑧ 三宅裕司君 言わずと知れた芸能人

⑨ 吉田亮一君 杉並区浴風会病院長、同期会のつもりで10人診察中

⑩ 輪座克彦君 日本BBC元社長、英国勲四等受賞

誌面の都合で書けませんが、元SP、警察署長、大学教授、その他中小企業の子息が多かった年代で、業界では有名人で頑張っている人が多数おります。HP「獅子の会、明治」の検索で、掲示板にて活動報告を見てください。

「紫紺の詩」より

が入っていて、公園や道端に置いて行つた。猫は来る時間が決つていたので、5、6匹行く場所に集まつている。町内を一周して一時間、自宅もつきとめた。それでもどうすることもできずに、猫はふえ続けた。猫がお腹いっぱいになると、恋人を捜し出す。デートの場所は材木の林場（材木を立てている場所）に、しめし合わせたように、カップルが出来上がる。

どうして林場がよいのか？ 都会の中で、自然に近く、人間が来ない。温度、湿度がベスト。その中で猫も彼女と一緒にいたら、猫のモーターになってしまい、子供が出来るのはあたりまえになる。

私は、いま美しい猫がこちらをにらみつけている。そこらにあった、まき（10cm×10cm×20cm）のコッパ（いらぬ木のカス）を投げつけた。すると、やつは止まつてしまい、まともに私のコッパを胸に受け止めてしまった。「どうして逃げないんだよ」。でも、やつは、

平然と立ち去った。よけい頭に来た。

またある日、猫を林場の中においかけたら2m以上もジャンプして、林場の奥に入ってしまった。これは、子供がいるなの予感。翌日、林場の中に子供が3匹いた。

土曜日の帰りに林場の中のトイレに行った。電話がなり、ドアがあけっぱなしにしていた。早く帰りたいから、中を見ないでドアを閉めて、帰った。月曜日、朝一の番頭さんが、トイレに行ったら、ネコが、気が狂ったように、あばれて、とんで出て来た。48時間もトイレにいたら、おかしくなったのだろう。

「社長、かゆいんですけど」女子の事務員の声に「またかあ」。私の知らぬ間に猫の子供が、歩き出している。経過はこうだ！子供が生まれると、おろが出る。その中に、親猫の体の中にいるのみの親が、血の中に卵を生みおとす。すると、卵から子供になる、のみと同時に子猫も動きだす。子供猫の中に子供のみが入り、子供猫が歩きまわると、

てまわりから、流す。本体の所には、なるべく濃くしてまく。②ほうきではいて、ゴミをあつめて、葉を入れて、すてる。③林場の中は、ほこり、木のカスがいっぱいで、こまかい所はホースの長い業務用掃除機できれいにとる。④また、うすめの薬をまいておく。当然、猫をつかまえて荒川土手にはなしてあげた。しかし、エサをあげる人は毎日来るし、猫のモーター化は、日増しにふえてくる。次の一手を考えた。猫を捕獲するより、しかたない。犬は保健所でもよさそうだが、猫は取り扱わないそうだ。ねずみ捕りがあるんだから、猫捕りもあるだろう。金物屋に相談に行った。猫捕りはないけれど、山陰の方で、いたち捕りなら猫もとれるらしい。さつそく2個注文した。横30cm、たて70cm、高さ40cmの四角い、ねずみ捕りの大型版が来た。やり方はねずみ捕りと同じ、窓があいていて入ってエサを食べると、入口がしまるものだ。私は改良して、エサの前に、木で踏むところを

のみを林場中、庭などにまきちらす。また、林場の中にのみがとびはじめ。通りかかった事務員に、血を吸う。靴下のゴムの部分に集中してくる。のみが跳ねる高さに合うのだろう。でも、のみにも選ぶ権利があたえられている。女子事務員の中でも、独身から血を吸い、子供のいる女子事務員に次に行く。五十代の女子事務員には、のみが出たけど「かゆい」と聞くとかゆくありません、そんなのいるんですか。のみがいそうだから近づかない方がいいと注意し、「やはり、おいしい順か？」の一人言。そう言っている場合ではなく、すぐ、掃除にかかる。この次は、男にかかってくる。昔、このような状態が知らなかった時、小学生の子供と三人で出掛けた。すると、地下鉄の中で、バックからのみとびはねて、前の立っている人に移っていた。子供と目をみあわせ、知らぬふりをしたことがあった。

そうじは、まず①薬を、じょうろでうすめ

つけて、踏んでエサをたべると、必ずフタが落ちて閉まるようにした。すぐ今晚やってみた。朝には猫がかかっていた。その目は睨みつけられ、そのあと、かごの中を走りまわっている。ストレスがたまり、便も撒きちらかしている。人間もこんな中に入ったら、気が狂うだろうなあとと思った。下にいらぬベンチ板を敷いていたから、それごと軽トラックにのせて、荒川土手の川向こうに放しにいく。フタをあけたとたん、とび出して逃げていく。川があると戻れないと聞いたからだ。猫は、人間のギセイ者と思っている。かわいそうだ。同じことをして、土手の道路に向って放してしまつたら、車にひかれる所だった。草むらで放してあげてを習慣づけた。私が猫で困っている話を近くの大工さんに言うのと、「うちなんか、真ん前でエサをやり、林場の中に入られて子供生んでるし、真夜、猫が彼女をさがす声がうるさくてねむれないよお」の話。私の猫捕りを1台貸してあ

げた。すると、76匹、とったよ、のこと。私は10匹位捕った。近くの公園では、エサに毒を入れて、一瞬で死んだ事件も出ていた。その後、なんとなく猫も少なくなってきた。猫を飼うことはよいが、フンや、不妊のことを考えずエサをやる人が多いが、まるつきり、自分かつてのように感じる。次に猫が来ないようにすればよいと考えた。いろいろな人の意見をきいた。①タバコカスを水にうすめて置くとか来ない ②灰をまくと来ない ③水をしめらせておくと来ない ④「ねこよらず」という薬も効き目がなかった ⑤安いクレゾール石鹸液1びん500円をためてみた。すると、番頭さんが気持ち悪くなり、3日も休んでしまった。⑥鉄条網。人間がひっかかる、あぶない。最悪は、コンクリート粉をまいた。よけい猫が寄つてきてしまった。よくコンクリートの生乾きのところに猫の足跡があつた。どうしてか猫は、コンクリートが好きなんだろう。乾く時に、一説にはフンと同じ臭いがす

るらしい。

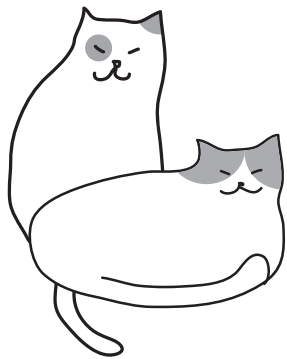
木の日の時（木の日は十と八で『木』。10月8日は木の日と決めてあり、毎年江東区木場公園で10月第1土・日でイベントが行なわれる）、木酢液が売っていた。純度も、そのまま、木酢液とは、炭を作る時、生の木から汁が出て、それを集めた液体。売っている人が、動物よけにも効くとのこと。すぐに、ためしてみる。まずビニールを地面に敷く。その上に雑巾を敷いて、重りの石などを置く。その上から、木酢液を雑巾にしみめらせる。こげた臭いがあるが、いやな臭いではない。3日〜1週間後、また木酢液をまく。3回以上やると、猫は来なくなる。猫の習性で、一回フンをするとなわばりとみなし、また排便にくる。こげくさい所は嫌いらしい。火事の出る家などは、動物が逃げていくのは、その訳はわからないが、私はこれで成功した。下のビニールは、木酢液はアクが強く、コンクリートもこげ茶に染まってい

まうから、ぜひやらないとだめです。

五年前、自宅の前で、猫にエサをやる女の人が二人いて、注意した。すると『私達、ネコちゃんにエサをやつて、不妊去勢も区より援助してもらい、耳はじを少し切つて印をつけるのよ。このネコが、一生心安らかな生活を送りてやつて、おくつてやります。』とのこと。思わず『ご苦労さまです』。それ以来、ネコは少なくなつた。生まれて3年後におすの発情期がさかんになり、ケンカが多くエイズにかかりやすいので野良猫がいなくなつたの説がある。猫エイズは人・犬にはいかないが、注意すべきことだ。ネコは1年で成人になり、5年で、人間の40才位になり、12年位が平均寿命です。

よく冗談で、女の子が、君、何年（十二支）と聞くと、私、ネコ年といった人がいたのを記憶している。先日、ベトナムへ行きました。十二支を見ると、いのししは豚年、他にうさぎ年がない。なんと、ここでは、うさ

ぎ年が、ネコ年になっている。じゃおれは、ここではネコ年か！



温泉の思い出 伊東温泉

支部会で、伊東温泉、東海館に行った。木造3F建てで、2Fに泊った。着いて散策して、夕飯というか、宴会もあり上り、Hさんが、「伊東で有名なものに行こか！」の話。タクシーで行くと、5人で、いくらのせつしよう、いくらかまけてくれたのですぐに入る。場内は、たばこが散乱している。どうしてタバコがあるんだろう。舞台では音楽がはじまり、50才過ぎのたるんだ胸、足、腹の人が踊り出した。1曲目は、だまって見て、拍手しないと、ごきげんをそこねる。2曲目は、もつと生まれたままの姿になつていつて、拍手かつさい。3曲目は、「だれかタバコない」の踊り子さんの声。「なきや10000円出しな」、仲間が10000円出した。すると、

自前のタバコを出して、大事な部分に紙筒を入れてその先にタバコを入れた。ちようど大砲のようになり、お腹を力入れて、「ハイ」の声すると、タバコが、舞台反対の壁まで届いていて戻ってきた。「ええ〜」どの位、距離があるんだろう。壁は、2尺×8尺のベニヤだった。商売柄、幅2尺(60cm)が、7枚はつてある。4・2mだ。それ以上に、舞台反対の壁にも当たっているから、5m以上は飛んでいるだろう。「すごい」の感心するばかり、芸のすごさにいやらしさはふきとんでいた。

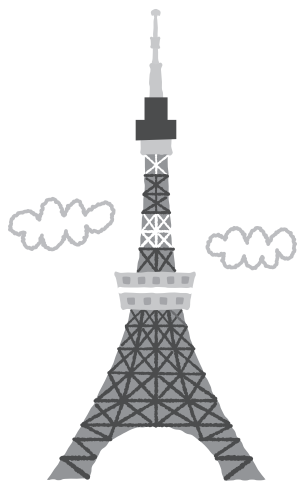


夫婦愛

社内旅行に行った時、東京タワーの近くを走った。子供二人いる事務員さんが、「東京タワーね、思い出があるの。」とひとり言。「なんだよ、それ。」と私は聞いてみた。「子供が、十才、七才の時に、家族で、東京タワーに登ったのよ。そしたらエレベーターが混んでいて、階段で登ったのよ。やつと第一展望台について、また下りも混んでいてエレベーターに乗れず、歩いて下りたの。すると下のろう人形館に入ろうと思ったらハンドバッグを展望台に忘れてきたのよ。うちのおとうさんが、また歩いて上つたらなんと、そこにハンドバッグがあつたのよ。よかったわ。」とのこと。「おとうさんは、二往復したの」「そうよ」「よくやつたね、おれだったら、ハンドバッグ、あきらめるよ。」「おとうさんはやさしいね。」と全

員で笑話になった。でも、今、おとうさんは、体を悪くして、歩くのもやつとになつてしまった。事務員はとくにやめたが、電話すると、毎日看病におわれているとのこと。「やさしいおとうさんが、働いてもらつて、いい生活できたんだから、がんばつてよ」と言つて電話を切った。

東京タワー、歩いて登ると、高さ120m、590段の階段、土、日、祝日に解放して登れます。



おとうさんの一日

二の二 ささもと とも子

おとうさんはまいあさ早くおきて、おみせをあけてから、ラジオたいそうにいてそして、ストーブの火をつけます。そして、おかあさんが二かいからおりてあさごはんをつくれます。あさごはんをたべてからおみせへいきます。そしておひるになってから上にあがります。そしてごはんをたべてまたおみせにいきます。6じになってからおみせをしめます。そして7じにごはんをたべます。そして8じにてれびをみます。8じ30分になったらおふろにはいります。9じにおみせでしごとをします。10じにふとんの上で本をよみます。11じごろねてる。けどともこはもうねているからおとうさんはいつねているかわかりません。



内しよ

ささ本 かずとし

まちがえてパンをたべた
きのうの夜、お母さんが言った。
「そのへんのパンたべて。」
よく朝、お母さんが言った。
「あれ、ここにあったパン知らない。」
お父さんが言った。
「知らない。」
そのパンは
お姉ちゃんの朝ごはんだった。
だまつていよう。





● 超高層マンションに潜む「これだけの不安」

● 『樹木年輪年代法』

— 奈良国立文化財研究所
光谷拓実・大河内隆之両氏の研究より —

● 『静電気』

● 木曾ひのき三味線奏者「野村深山」

● 『ある日の鈴木演劇場』

● 「五重塔はなぜ倒れないか」

友人 Kさん

● 『カラスと人間 — 知恵比べ』

